

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	一般財団法人住友生命福祉文化財団	
施 設 名	住友生命いずみホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	26,250	(千円)
	公 演 事 業	22,379 (千円)
	人 材 養 成 事 業	539 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,332 (千円)

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	いずみシンフォニエッタ 大阪 第50回定期演奏会	令和5年7月8日	【出演】飯森範親(指揮)、菊本和昭(トランペット)、小栗まち絵(ヴァイオリン)、上田 希(クラリネット)、篠崎和子(ハープ) 【曲目】リゲティ: ミステリー・オブ・マカーブル、ペンデレツキ: 弦楽のためのシンフォニエッタ、池辺晋一郎: 降り注ぐ・・・、西村 朗: ヴァイオリン、ハープ、クラリネットと管弦楽のための三重奏協奏曲(委嘱新作)	目標値	444
		住友生命いずみホール		実績値	540
2	シューベルト・シリーズ ① 神尾真由子 with Friends	令和5年8月4日	【出演】神尾真由子、滝千春(ヴァイオリン)、横溝耕一(ヴィオラ)、横坂源、富岡廉太郎(チェロ) 【曲目】シューベルト: 弦楽五重奏曲ハ長調 D956、ポッケリーニ: 弦楽五重奏曲 op.11-5	目標値	530
		住友生命いずみホール		実績値	361
3	佐藤正浩プロデュース・オペラ プレ・コンサート	令和5年8月6日	【出演】佐藤正浩(指揮・ピアノ)、森谷真里(ソプラノ)、池田香織(メゾソプラノ)、宮里直樹(テノール)、甲斐栄次郎(バリトン) 【曲目】ビゼー: 《真珠とり》より「燃えたぎる砂浜の上で」「聖なる神殿の奥深く」「耳に残るは君の歌声」「嵐は静まった」、プーランク: 《カルメル会修道女の対話》より「お父様、取るに足らない出来事ではありません」「Ave Maria」「なぜあなたはこうして目を伏せたまま」、マスネ: 《タイース》より「私は美しいと言って」、《エロディアド》より「儂いまぼろし」、《ウェルテル》より「ウェルテル、誰が私の心の中を」「春風よ、どうして僕を目覚めさせた?」他	目標値	616
		住友生命いずみホール		実績値	406
4	日本の響き 片岡リサ 和のいずみ(1)	令和5年8月26日	【出演】片岡リサ(箏、プロデューサー)、藤原道山(尺八)、池上垂佐佳、日吉章吾(箏)他 【曲目】宮城道雄: 春の海、吉沢検校(二世): 千鳥の曲、藤倉 大: momiji~尺八と箏のための(委嘱新作)、ころころ~尺八のための、藤原道山: 花宴、空、spring(世界初演)他	目標値	506
		住友生命いずみホール		実績値	532
5	シューベルト・シリーズ② バッハ・コレギウム・ジャパン	令和5年9月16日	【出演】鈴木雅明(指揮)、安川みく(ソプラノ)、清水華澄(アルト)、鈴木准(テノール)、大西宇宙(バス) 【曲目】シューベルト: 交響曲第7番《未完成》、ミサ曲第5番変イ長調	目標値	593
		住友生命いずみホール		実績値	414
6	大阪フィルノモーツァルト協奏曲プロジェクト	令和5年10月4日	【出演】井上道義(指揮)、阪田知樹(ピアノ)、大阪フィルハーモニー交響楽団 【曲目】モーツァルト: 歌劇《フィガロの結婚》序曲 K.492、ロンド ニ長調 K.382、交響曲第35番ニ長調 K.385「ハフナー」、ピアノ協奏曲第24番 ハ短調 K.491	目標値	496
		住友生命いずみホール		実績値	525

7	シューベルト・シリーズ③ ハーゲン・クアルテット	令和5年11月5日	【出演】ハーゲン・クアルテット 【曲目】ドビュッシー：弦楽四重奏曲ト短調、シューベルト：弦楽四重奏曲第15番ト長調 D887	目標値	549
		住友生命いずみホール		実績値	415
8	フランス・オルガン音楽の魅惑(3) ヴァンサン・デュボワ	令和5年11月18日	【出演】ヴァンサン・デュボワ（パイプオルガン）、森本瑞生、丹治 樹（打楽器）、ミシェル・ブヴァール（プロデューサー、お話） 【曲目】フランク：3つのコラールよりコラール第3番、ヴィエルヌ：交響曲第2番よりデュプレ：受難交響曲より、メシアン：主の降誕より、コシュロー：「シャルル・ラケ」の主題によるボレロ即興曲、フロレンツ：讃歌 op.5より、デュボワ：即興演奏	目標値	482
		住友生命いずみホール		実績値	345
9	シューベルト・シリーズ④ ティル・フェルナー	令和5年11月22日	【曲目】モーツァルト：幻想曲 ハ短調 K.475、ベートーヴェン：ピアノ・ソナタハ長調 op.53 《ワルトシュタイン》、シューベルト：4つの即興曲 D935、シェーンベルク：6つの小さなピアノ曲 op.19	目標値	499
		住友生命いずみホール		実績値	283
10	シューベルト・シリーズ⑤ イアン・ポストリッジ	令和6年1月17日	【出演】イアン・ポストリッジ（テノール）、ジュリアス・ドレイク（ピアノ） 【曲目】シューベルト：郷愁 D456、憧れ D879、野外で D880、ただあなたのそばに D866-2、月に寄せる旅人の歌 D870、臨終を告げる鐘 D871、真珠 D466、自らの意志で沈みゆく D700、怒れるディアナ D707、捕らわれた狩人の歌 D843、ノルマンの歌 D846、さすらい人 D493、ヒッポリートの歌 D890、リュートに寄せて D905、私のクラヴィーアに D342、泉のほとりの若者 D300、ウルフルーが漁をする時 D52、子守歌 D527、友に D654、草原の歌 D917、孤独な男 D800、夕映えの中で D799	目標値	510
		住友生命いずみホール		実績値	467
11	いずみシンフォニエッタ 大阪 第51回定期演奏会	令和6年2月10日	【出演】飯森範親（指揮）、本條秀慈郎（三味線） 【曲目】西村朗：〈歌〉、ブリテン：弦楽のためのシンプル・シンフォニー、冷水乃栄流：室内オーケストラのための「ハルシネーション」（関西出身若手作曲家プロジェクト第9弾）、藤倉大：三味線協奏曲、一柳慧：室内交響曲「タイムカレント」	目標値	431
		住友生命いずみホール		実績値	387
12	シューベルト・シリーズ⑥ トリオ・アコード	令和6年2月22日	【曲目】フンメル：ピアノ三重奏曲ト長調 op.35、ハイドン：ピアノ三重奏曲変ホ短調 Hob.XV:31、シューベルト：ピアノ三重奏曲変ホ長調 D929	目標値	486
		住友生命いずみホール		実績値	410
13	小菅優 室内楽プロジェクト（1）	令和6年3月7日	【出演】小菅優（ピアノ）、吉田誠（クラリネット）、金川真弓（ヴァイオリン）、北村陽（チェロ） 【曲目】サン＝サーンス：祈り op.158、リリ・プーランジェ：哀しみの夜に、メシアン：多くの死、世の終わりのための四重奏曲	目標値	496
		住友生命いずみホール		実績値	417

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場	(演目、主な出演者、スタッフ等)	目標値	実績値
1	人材養成事業室内楽マスタークラス	令和5年7月31日 ～8月2日	【講師】葵トリオ[小川響子(ヴァイオリン)／伊東裕(チェロ)／秋元孝介(ピアノ)]	目標値	75
		住友生命いずみホール	【受講生・選択曲】安成紅音(ピアノ)／シューマン: ピアノ三重奏曲第3番 op.110より、城野聖良(ヴァイオリン)／メンデルスゾーン: ピアノ三重奏曲第2番ハ短調 op.66より、佐々木つくし(ヴァイオリン)／ベートーヴェン: ピアノ三重奏曲第7番変ロ長調 op.97より、SESSHU TRIO／ブラームス: ピアノ三重奏曲第1番ロ長調 op.8より、難波洸(ヴィオラ)／シューマン: ピアノ四重奏曲変ホ長調 op.47より	実績値	92

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	住友生命いずみホール オープン・ハウス	令和5年4月8日	○「ホールを楽しむ」/ミニコンサート 【出演者】碓山典子(ピアノ)、佐藤一紀(ヴァイオリン)、山司恵莉子、塩澤真輝(パイプオルガン) ○「ホールを知る」/バックヤード見学(バックステージを自由に見学)、楽器見学(ホール所蔵の鍵盤楽器)、パネル展示「ホールの歴史」、スタッフによる解説付きパイプオルガン見学会(約30分、1回20名程度)を2回実施。	目標値	600
		住友生命いずみホール		実績値	669
2	シューベルト・シリーズ 特別企画 レクチャー・コンサート	令和5年5月30日	【出演者】堀朋平(お話)、松原友(テノール、お話)、三井ツヤ子(メゾソプラノ)、清水徹太郎(テノール)、森寿美(バリトン)、武久竜也(バス)、越知晴子(ピアノ) 【曲目】シューベルト:酒宴の歌「兄弟たちよ、われらが人生の行路は」D148、夜の明かり D892、夜 D983、ゴンドラの乗り手 D809、愛の霊 D747、詩編第23番 D706、セレナーデ D920、娘の愛の立ち聞き D698、18のドイツ舞曲とエコセーズ D783より、ミヒャエル・ハイドン:セレナーデ MH594	目標値	600
		住友生命いずみホール		実績値	511
3	いずみ子どもカレッジ2 023	令和5年8月10日	【出演者】P. A. N. Klang(パーカッション・アンサンブル) 【曲目】アンダーソン:タイプライター、シンコペーテッド・クロック、高橋伸哉:ラッシュアワー、井上武士:海、ガーシュイン:パリのアメリカ人	目標値	600
		住友生命いずみホール		実績値	457※
4	住友生命いずみホール 夢コンサート	令和5年9月27日	【出演】藤岡幸夫(指揮)、都築由美(司会)、関西フィルハーモニー管弦楽団 【曲目】ヨハン・シュトラウスⅡ:こもり序曲、モーツァルト:アイネ・クライネ・ナハトムジークより第1楽章、ベートーヴェン:交響曲第6番「田園」より第1楽章、指揮者体験コーナー:ハンガリー舞曲5番、ブラームス:ハンガリー舞曲第5番、シューベルト:ロザムンデ序曲、レハール:ワルツ「金と銀」	目標値	600
		住友生命いずみホール		実績値	383※
5	音楽講座 『ラヴェルの秘術』	公演中止	講師である西村朗氏逝去のため公演中止。	目標値	678
				実績値	—

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価			
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>			
<p>「地域文化の拠点」として、ミッション「世界とのドア」「地域とのつながり」を実現するべく、令和5年度は公演事業（13）、人材養成事業（1）、普及啓発事業（5）を計画。やむを得ない事情により、普及啓発事業5を中止としたほかは全事業を実施することができた。（夏季にやや新型コロナウイルスの影響があり、普及啓発事業の無料イベントは感染拡大防止の観点から集客数の抑止を余儀なくされた）。</p> <p>地域の特性を踏まえ、ふたつのミッション「世界とのドア」「地域とのつながり」を具体化する「7つのビジョン」（※表）を設定し、各事業それぞれに合致する項目について、目標と連動させ、主に以下のような成果を得られたと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公演事業では音楽アドバイザー堀朋平の専門分野であるシューベルトを特集する6公演を中心に、在阪オーケストラとの連携、大阪、関西ゆかりのアーティストの公演を軸にした事業を開催した。を実現し、大阪・関西の実演芸術の振興と音楽文化発信に寄与することができた。 ● 人材養成事業では、次世代の演奏家に学びの機会を提供できた。 ● 普及啓発事業では、幅広い方々にクラシック音楽に親しむきっかけを提供できた。クラシック音楽文化の裾野を広げるだけでなく、専門性あるレクチャーで知見を広げる機会を提供することができた。 <p>当助成の対象公演を通じて、ミッション「世界とのドア」「地域とのつながり」を実現できたと考えている。</p>	設置目的	音楽による社会貢献	
	ミッション	「世界とのドア」	「地域とのつながり」
	ビジョン	【1】	独自性があり他のホールではできない主催事業の開催
		【2】	発信力の強化「より広く」「より深く」
		【3】	地元アーティストとの協働
		【4】	「誰もがクラシック音楽に親しめる」音楽文化の拠点
		【5】	次世代の音楽文化の担い手の育成
		【6】	ネットワークの活用と強化
	【7】	経営基盤の安定化	
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>住友生命いずみホールは民間ホールであるが「音楽による社会貢献」を理念に、設立以来一貫して「地域の公共財」として、中規模ホールの特性を活かした独自の事業を実施している。</p> <p>令和5年度は、大阪市芸術活動振興事業の対象事業として支援を受けた（公演事業1、11）。このことは地域の文化拠点として、大阪府・市の「文化振興計画」が指し示す将来像「文化自由都市大阪」実現の一翼を担っていることを評価して頂いていることを示していると考えている。</p> <p>また、民間財団（花王芸術・科学財団、三菱UFJ信託芸術文化財団、野村財団、日本室内楽振興財団）からも助成を受けており、「世界とのドア」「地域とのつながり」をミッションに掲げた当ホールの事業を評価・支援していただいていることの証左と考えている。</p> <p>新聞・雑誌に多くの記事に取り上げられたが、今年度の特徴として、公演事業の多くが事後に批評記事が掲載されたことが挙げられる。これは、当ホールの取り組みが文化的、社会的に意義があることとメディアの方々に認めていただいた一つの裏付けになると考えられる。ホール自身の価値向上により、今後も大阪・関西の音楽文化の発展に寄与できると考えている。</p>			

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

「地域の中核＝大阪・関西のクラシック音楽文化の拠点」としての機能を強化、実演芸術の振興とクラシック音楽文化の発展に寄与することを目標とし、「世界とのドア」「地域とのつながり」の二つのミッションを掲げて取り組んだ。定量的指標は下表のとおりである。以下、定性的観点から述べる。

【公演事業】

【ビジョン1】に掲げる「独自性があり他のホールではできない主催事業の開催」を主要なテーマとし、堀朋平（ホール音楽アドバイザー）、西村朗（いずみシンフォニエッタ大阪音楽監督）、ミシェル・ブヴァール（フランス・オルガン音楽の魅惑シリーズ・プロデューサー）をはじめとする、専門家の全面的な協力を得て全13事業を実施した。掲載本数全数こそ目標に達していないが、全ての公演事業が批評記事・事後記事として新聞・雑誌・ウェブメディアに掲載された（17件）。後述の（4）創造性の項目もご参照いただきたい。

【人材養成事業】

【ビジョン5】「次世代の音楽文化の担い手の育成に資する」を主眼に室内楽マスタークラスを開催した。積極的な取り組みで受講生の期間中の上達ぶりは目覚ましく、講師を務めた葵トリオメンバーからも「非常に有意義な経験であった」と感想が寄せられている。プロの演奏家を含め、関西中心に全国から目標人数を超える聴講生が集まった。ウェブ聴講者数は振るわなかったものの、長大なレッスン動画を見続けることと、その場の空気を共有することの差は大きいため、コロナ禍収束とともにこういった形態での音楽レッスン聴講は役割を終えつつあると料する。昨年のパイプオルガン・マスタークラスから選ばれた受講生は、今年度の普及啓発事業（オープンハウス）に演奏家として参加する機会を設けた。

意欲的な取り組みで、受講の成果を発揮したと考えており、若手演奏者の育成と機会提供に引き続き取り組みたいと考えている。

【普及啓発事業】

【ビジョン4】「誰もがクラシック音楽に親しめる音楽文化の拠点」を実現する事業として、「地域とのつながり」に重点を置き、クラシック音楽文化の裾野を広げる取り組みとして、全4事業を開催した。「住友生命いずみホールそのものを知っていただく」ことも念頭に、クラシック音楽に親しむきっかけの提供、子どもの鑑賞・体験機会の拡充、障がい者の社会参画機会を確保することで、「クラシック音楽の聴き手の裾野拡大」に取り組んだ。夏季には新型コロナウイルスの影響もあったが、全体的に初めての来場者の割合が多く、新たな客層の開拓にもつながったと考える。

公演事業の指標達成度	目標	実績	
【指標①】入場者数	6,562	5,502	
【指標②】会員数	3,100	3,589	
【指標③】記事数	70	66	
【指標④】SNS:X(旧Twitter)	ツイート数	600	737
	平均インプレッション	3,500	3,164
	フォロワー数	3,300	3,502
	【指標⑤】You Tube		
	(いずみch)	600	825
	(ISO ch)	650	748
【指標⑥】HPビュー数	1,000,000	1,280,201	
【指標⑦】U-30/ユースシート利用者数(平均)	15	19	
【指標⑧】アンケート	回収率	10%	8.60%
	満足度(高評価)	95%	95.30%
人材養成事業の指標達成度	目標	実績	
【指標①】受講生人数	4	5	
【指標②】聴講生人数	45	85	
【指標③】ウェブ聴講生	30	2	
【指標④】SNS※公演事業の④と共通	-	-	
【指標⑤】成果発表会入場者数	100	104	
普及啓発事業の指標達成度	目標	実績	
【指標①】応募人数(2～3平均)	700	593.5	
【指標②】参加人数(1～4平均)	600	505	
【指標③】SNS※公演事業の④と共通	-	-	

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

いずれの事業も数年前から綿密なリサーチと準備を重ねている。十分な準備期間を取ることで、下記のような工夫ができ、事業の特色を生むことができていると考える。

令和4年度の「シューベルト交響曲全曲演奏会」につづき、令和5年度のメイン企画として実施した「シューベルト 約束の地へ」(全5公演、公演事業2、5、7、9、10、12)では、各ジャンルの「後期」に着目。国内外のスペシャリストのスケジュールを早期に確保できたことと、彼らとともにシューベルト研究者である堀朋平のコンセプトに沿ったプログラムを作ることで、当ホールならではの特色を出すことができた。関連企画としてレクチャーコンサート(普及啓発事業2)では、パートソングに光をあて、作曲家の魅力をより深く理解していただけるよう工夫した。

いずみシンフォニエッタ大阪は長期的なビジョンを持って選曲をしている。定期演奏会(公演事業1、11)の曲目は音楽監督・常任指揮者・演奏家らが加わる委員会での合議で数年先を見据えた準備を進めている。「現代音楽の普及に資する」という楽団の性質上、同時代の音楽の聴き手を増やす取り組みも非常に重要で、長年「音楽講座」(普及啓発事業5)をセットで実施してきた。西村朗による作曲家ならではの解説で名曲を紐解き、未来を見据えた音楽への理解を促す取り組みとしてきたが、同氏の逝去により、中止せざるを得なかった。

ホールの音楽的資産でもあるパイプオルガンは独仏のレパートリーに対応できる機能を備えている。この特長を発揮できるよう、近年はバッハ作品への取り組みに加え、フランス音楽をテーマに加え、両輪として事業を展開している。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

上記の通り、早い時期から企画立案に着手することにより、綿密な予算化が可能である。支出については、全事業ともほぼ計画通りの予算執行となった。

集客数確保、チケット収入を確保すべく、事前の宣伝にも注力した。アンケート等、情報入手経路の調査を実施、結果に基づき予算の配分を工夫したが、コロナ禍の影響から完全に脱却できておらず、結果的に伸び悩んだ。より多くの方に来場していただくことはチケット収入の確保につながり、財政基盤の安定化につながる。

また集客は「地域の中核=大阪・関西のクラシック音楽文化の拠点」として芸術文化の普及に資することと考えており、この点は今後の課題である。引き続き重点的に取り組むことと考えている。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

住友生命いずみホールでは、オープン以来、故・礪山雅音楽ディレクターとの協働で「現在」を支点に「音楽の原点」と「音楽の未来」を見据え、海外アーティストの紹介、研究を踏まえた知見を紹介する企画などに取り組んできた。「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」の助成事業を中心に、地域の文化拠点としての役割を果たすべく、現在は音楽アドバイザーの堀朋平がその役割を担っている。

いずれの事業も、準備段階から専門家の全面的な協力を得ており、事業の質と独自性につながる工夫をし、広報にも注力している。その結果、助成事業を中心に、令和5年度のメディア登場回数は125回となった（新聞・雑誌、インターネットメディアの記事、テレビ放送など）。

(2) 有効性の項でも述べたが、各ジャンルの「後期」に着目した「シューベルト 約束の地へ」（全5公演、公演事業 2、5、7、9、10、12）は国内外のスペシャリストが登場する点、シューベルト研究者である堀朋平のコンセプトに沿ったプログラムに注目が集まり、事前から多くのメディアに取り上げられたほか、新聞、音楽雑誌にシリーズ全公演の批評が掲載された。中でも注目されたのはイアン・ボストリッジによる歌曲公演（公演事業 10）で、「4つ目の歌曲集を」というコンセプトによる堀・ボストリッジ両氏の綿密な準備が結実し、「シューベルト研究者の堀を[...]擁する住友生命いずみホールならではの」（2024. 1. 25 朝日新聞／伊東信宏）、「歌曲表現の極致を示していたといっても過言ではない」（音楽の友 2024 年 3 月号／中村孝義）と評されている。

いずみシンフォニエッタ大阪は定期演奏会の事前の広報活動に注力、第 50 回（公演事業 1）に向けては音楽監督・西村朗、常任指揮者・飯森範親が、第 51 回（公演事業 11）に向けてはソリストの本庄秀次郎（三味線）と、委嘱作曲家の冷水乃栄流が登場し、それぞれいずみシンフォニエッタ大阪の取り組みや現代音楽演奏の意義について語り、公演前に多数の記事がメディアに掲載された。

一般に難解と思われる「現代音楽」への興味を広げるため、いずみシンフォニエッタ大阪では定期演奏会に先立ってプログラムアドバイザー川島素晴による解説動画や、事前の曲目解説の公開を行っている。当日もプレコンサート、プレトークなど演奏者を身近に感じるイベントを開催するなど「現代音楽」にたいするハードルが低くなるよう工夫を継続している。2015 年に Youtube チャンネルを開設、委嘱新作を中心にアーカイブ配信を実施しており、チャンネル登録者数をじわじわ拡大している。オープンハウス（普及啓発事業 1）へのメンバーの出演も、いずみシンフォニエッタ大阪の活動を広めつつ、ホールの特性を生かした地域の文化拠点としての活動である。

パイプオルガンを有するホールとして、楽器を有効に活用することは大きな使命である。独仏のレパートリーに対応できる特長を活かす公演の実施を軸に公演事業を制作している。令和 5 年度はオープンハウスに若手オルガニストを起用（令和 4 年度の人材養成事業マスタークラス受講生から選ばれた成績優秀者 2 名）。演奏機会の確保と提供、また地域の方々にパイプオルガン演奏に触れていただくきっかけ作りに繋がった。このとき、見学会参加希望者が予想以上に多く、楽器自体への興味関心の高さが示された。楽器そのものへの興味関心に応える事業の実施も重要なテーマと考え、助成対象事業以外でもパイプオルガンの活用に取り組んでいる。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

公演事業では「世界とのドア」と「地域とのつながり」を実践するため、国内外で活躍するアーティストの公演と、大阪からの文化発信をバランスよく実施することを目指した。「室内楽マスタークラス」（人材養成事業）では若手演奏家の研鑽の現場を一般の方にもご覧いただいたほか、公演事業に付随するリハーサル見学会を開催（「いずみシンフォニエッタ大阪定期演奏会」、「モーツァルト協奏曲プロジェクト」）。想定以上の来場があり、芸術の創造の現場をじかに感じていただく機会を提供できた（「モーツァルト協奏曲プロジェクト」見学会は特に青少年を主要な対象に設定した）。さらに、「和のいずみ」では夕陽丘高等学校音楽科の生徒が出演する機会を設けることで、次世代の音楽文化の担い手に実践の場を提供した。

前項に述べたように、助成事業をはじめ令和5年度のメディア登場回数は125回で、その多くはホール事業に関する新聞・雑誌、インターネットメディアの記事である。これらの話題をSNSで拡散、集客に活用する取り組みを継続的に実施している。

当ホールでは、「公演の記事化→SNSで発信→公演・ホールの周知、公演来場」というサイクルを描く広報を実施している。また、SNSは常時稼働し、公演前にはアーティストの発信した情報のリツイートも併用するほか、公演終了後は来場者の感想のリツイートも実施している。公演事業、人材養成事業ではSNSフォロワー数、インプレッション平均を目標達成の指標にも導入しており、着実に数を伸ばしている。

助成事業を含めた全事業で来場者にアンケートを実施。指標として、アンケート回答の「満足度」を設定したが（公演事業）、「とても満足」「やや満足」が平均で95.3%を占めている。以下、自由記述の感想を一部抜粋する。

「現代曲ばかりのコンサートは、初めてでしたが、この場に立ち会えて本当に良かったです。全曲満足感が湧いてきました。特に、トランペットの音色が衝撃でした。」（公演事業1）「素晴らしいの言うまでもなく、一気にフランスへ旅した気分でした。もっと聴いていたいと思い、来年からのシリーズが楽しみでなりません」（公演事業2）「コンサートホールで和楽器のみの演奏会というのは素晴らしい企画でした。特に後半の現代曲は聴き応えがありました。」（公演事業3）「バッハコレギウム・ジャパンの素晴らしさに圧倒されました。ミサ曲は古楽器演奏に拘わらず華々しさ、圧倒的歌唱力のパワーは、今の時代に祈りを込めた新しいミサ曲と感じました」（公演事業5）「フランスの近現代のオルガニスト兼作曲家のつながりと流れ、大変興味深く拝聴しました。フランスオルガン音楽の今を現在の最高峰のオルガニストの演奏で聴けて、至福の時を過ごしました」（公演事業8）「影響を受けた先輩作曲家2人の作品と並べてシューベルト作品を聴くことで、当時の音楽界の流れを垣間見ることができた上、シューベルトの独自性と比類なさが浮き彫りになったように思います。すばらしいプログラミングでした」（公演事業12）「小菅優さんのいずみホールでの企画や選曲がいつも素晴らしく、楽しみにしています。今回は共演者の方々と化学反応もあり、室内楽でこんなに興奮して熱くなるのは初めてでした。次回もとても楽しみにしています」（公演事業13）

このように、制作の際のコンセプトやお届けしたいものを受け取っていただける方々に、繰り返し来場いただけていることが、別項目の回答（来場回数）にも表れており、複数回来場の割合が高い。ホール主催事業に期待をもっていることがうかがえる。

いっぽうで来場回数についての設問では、毎回一定数「初めて」の回答がある。普及啓発事業では特に割合が高い。新しい来場者が常に加わることで、音楽文化の聴き手の裾野が広がっていると考えている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

下記5項目を軸に、安定的な運営と組織の強化を図っている。

1. 事業運営・経営戦略

当ホールの目的は「クラシック音楽の普及等を通じて音楽文化振興に貢献すること」であり、「世界とのドア」と「地域とのつながり」というミッション実現のため事業運営を行っていくことは不変である。そのために地域のニーズを汲み取り、芸術性を高めるため不断の努力を続けている。

住友生命からの毎年の財団への寄付金 385 百万円（当ホール分見合いとして 199 百万円）が収入の約半分を占める安定基盤である。令和2年度よりホール名を「住友生命いずみホール」に改称し、住友生命との強固な連携を対外的に打ち出している。事業収入、貸ホール収入、協賛金の増収、ブランドを高めるため住友生命との連携を深める取組みを継続している。

地域のニーズを汲み取り、芸術性を高めていくことが、事業収入、貸ホール収入や有料会員（フレンズ）会費の増収につながり、併せて、本助成金、政府・自治体や民間団体の助成金・補助金の実施主旨に応えることになると考えている。

2. 人事戦略

財務基盤と人材が事業運営のための両輪である。そのために安定雇用（終身雇用）を前提とし、職員 28 名中 20 名が直接雇用・正規雇用職員である。長期でキャリアパスを築ける仕組みになっている。一方で内向きの業務遂行となるリスクもあり、社外研修への参加、社外団体との交流を継続、若手の登用、新規採用も検討している。音楽大学等への講師派遣等も職員のスキルアップにつながっている。

新型コロナウイルスの影響を受け、業務が現場主体でありながら政府のテレワーク要請にいち早く応え、かつ職員の安全安心のため在宅勤務可能なシステム環境を整え、現在も継続している。

3. ネットワークの強化

実演団体、音楽事務所、劇場・音楽堂関係団体、公立文化施設、姉妹ホール、教育機関等の連携を維持しており、引き続き緊密な連携を図る。

4. PDCA

令和4年度より営業部と企画部を統合。企画営業部として「DXを用いた顧客とホールの新しい接点作り」を軸に販売戦略を練り、日々見直している。DXのほか、調査・研究なども含め「コロナ禍からの再生」をテーマに事業に取り組んでいくことで持続的な発展が得られると考えている。

5. 顧客の拡大

DXの一環として取り組んでいる「フレンズ」オンライン入会とネットに特化した低廉なプランの創設、チケット販売システムの改良、会員向けの動画配信等が功を奏し、会員数を「コロナ禍以前」まで戻し、現在は増加傾向ある。引き続き「音楽文化の拠点」として公演を提供することと、サービスの拡充で顧客の確保と拡大に結びつけたい。